

持続可能な農業と付加価値向上を目指した 有機農業の推進

県北農林事務所常陸大宮地域農業改良普及センター

当普及センターでは、環境負荷を低減した持続可能な農業の取組と、付加価値の高い農産物を生産する有機農業の取組を拡大するために、関係機関との連携により有機農業を推進しています。

令和5年度は、常陸大宮市三美地区の大規模有機モデル団地において有機農業に取り組む3法人に対して、有機栽培野菜の安定生産、鷹巣地区での水稻の有機栽培及び常陸大宮市における有機農業産地づくりの支援を行いました。

モデル団地での有機栽培野菜の安定生産 (常陸大宮市三美地区)

市外から参入した有機農産物生産に取り組む2法人に対して、県研究機関と連携して試験ほを設置し、畝間雑草管理や適切な有機資材投入量を検討した結果、いずれの法人も収穫量が増加し安定生産につながりました。また令和4年から有機栽培に取り組み始めた市内の1法人に対し、作物別の栽培管理指導を行った結果、有機栽培品目が増加(5→15品目)し、10品目が学校給食に提供されました。加えて、同法人の有機JAS認証取得を支援した結果、4.5haが認証されました。



写真1 有機農産物を使用した学校給食

水稻の有機栽培支援 (常陸大宮市鷹巣地区)

令和5年度から初めて水稻の有機栽培に取り組む法人及び個人生産者1名に対し、実証ほ設置による栽培支援を行いました。生育調査、収穫調査、酸化還元電位や水位の測定などのデータ収集により、安定生産のための技術確立に向けた指導を行った結果、平均収量420kg/10a(目標240kg/10a)を確保することができました。収穫したお米は、11月6日から常陸大宮市内の学校給食に提供されています。



写真2 有機栽培水稻の収穫祭

有機農業産地づくり

常陸大宮市と連携し、有機農業産地づくり推進緊急対策事業を活用して、三美地区(有機栽培野菜)、鷹巣地区(有機栽培水稻)を中心に有機栽培産地の育成を支援しました。その結果、同市が11月5日に県内初となる「オーガニックビレッジ宣言」を行いました。

また、有機農業に関心の高い生産者を対象に有機農業研修会を年間10回開催した結果、有機JAS認証取得希望者6名を育成することができました。



写真3 有機農業研修会の様子